

第 2 回北名古屋市市民協働指針策定委員会 報告

日 時 平成 24 年 9 月 21 日 (金) 18:30~21:00

場 所 北名古屋市役所 西庁舎分館 2F 第 3 会議室

出席者 11 名 傍 聴 1 名

■第 2 回の概要

- ・市民協働ふりかえりアンケートの結果報告
- ・市民協働指針の骨子の説明
- ・協働の背景と定義について意見交換

1. 市民協働ふりかえりアンケートの結果報告

7 月~8 月にかけて、現在北名古屋市で取り組まれている行政との協働事業について、アンケートを実施しました。33 の事業について、市役所担当課から 17 件、市民・団体から 52 の回答がありました。アンケートの結果は、市役所と市民・団体にわけて、それぞれの現在の協働についての考えを整理し、その内容を事務局より報告しました。

(1)アンケートのまとめ

- ①現在の協働の状況は、市役所と市民・団体双方で、おおむね高評価です。特に打合せや役割分担がしっかりなされており、市役所と市民・団体に信頼関係を築けているとの回答もみられました。課題としてあげられていた「対等な立場に立つこと」や「成果の確認」など、協働のプロセスを意識すれば、さらに良くなる可能性があります。
- ②市民団体の基盤強化が協働の効果として現れていないこと、行政依存を気にする回答があったことなど、市民団体の主体性・自立性を高め、市役所と対等な関係を築いていくことが課題です。
- ③現在の協働事業は、行政が認識している課題について、市民に協力を依頼して事業を行う形が多いことが、アンケート結果から推定されました。逆に、行政が気づいていない地域の課題について、市民・団体の側からどのように公共の場にあげていくかの検討が必要です。

(2)岩崎先生のコメント

このアンケートが今日の議論をするうえでのベースになるかと思います。ここから読み取れることはかなり個別具体的で、一概には言えませんが、全体に共通する部分を少し浮かび上がらせる必要があると思います。

事務局からも説明がありましたが、問 3 の協働の効果について、「これまで知らなかった、隠れた地域の課題を知ることができた」という項目を回答した件数が、市の職員はごくわずかで、逆に市民では多いという結果になっています。つまり、市は「これが地域の課題です。だから、市



民のみなさん、協力しませんか」という提案の仕方をしているんですね。市は地域の課題を知っている、と職員は思っています。逆に市民のほうは、市から言われて「これが地域の課題なんだ」と気づき、「自分たちのことだからやらなくては」と思って活動をしているわけです。つまり、北名古屋の協働は、現状では行政主導であると言えます。

だったら、市民の側から、自分たちの知っている課題について、「私たちがこの課題について活動する時に、市はどういうふうに協働できますか」というように、協働提案をしてしまうようなしくみを作っ

ていってもいいのかもしれない。

そういう具体的なしくみを考えていくときに、このアンケートからキーワードを拾って行って、協働の原則について考えてみるといいと思います。

また、市民・団体の方たちは、ずっと継続して活動しています。ところが、市の職員は異動します。他市ではよく「職員がかわると対応がぜんぜん変わってしまう」という悩みを聞きますが、今回のアンケートの結果からは、あまり出てきていません。ただ、みなさんの活動の実感としてそういうことがあれば、協働を推進するにあたっての市の内部方針・人材育成についての議論をすればいいと思います。

そうした議論の土台になるものとして、しっかり読み込んでいきたいですね。

2. 市民協働指針の骨子について

事務局より、市民協働指針策定のねらいと、指針に盛り込まれる主な項目について説明がありました。また、主な項目の中でも、主に委員会で議論していきたい5つの項目について提案しました。

【3つのねらい】

- ①市民協働理念の確立
- ②実務のためのハウツー手引書
- ③決意表明

【特に議論したい項目】

- ①協働の定義
- ②協働の背景
- ③協働の進め方
- ④協働の役割分担
- ⑤協働の推進方策

3. 正副委員長の選出

互選により、下記のように選出されました。

委員長：池田賢作さん 副委員長：中田るり子さん

4. 協働の背景と定義について

2 グループにわかれ、フリートークの形式で、協働について感じていることを意見交換し、共有しました。

A グループの発表

(1)指針の必要性

- 地域にはいろんな活動があり、いろんな協働をしている。それに関わるみんなが、目指すものがほしい。
- 指針があることで、地域の場で楽しみながら本音で話し合えるようにしたい。



(2)どのような指針をつくるか

- 簡単でみんなが取り組みやすいもの。内容よりは、指針ができてから、長く協働に取り組んでいける必要がある。
- 市民活動や協働に参加しやすくなる、わかりやすい、すそ野を広げるようなもの。
- 地域での活動が自立して、市に頼らなくてもよくなるような目標となるもの。
- あまり大変なものを初めに示すと、参加する人がいなくなる。
- 委員だけでなく、北名古屋市を終の棲家にする人達に響く内容にしたい。

(3)指針のつくり方

- ある程度のたたき台があったほうが話しやすい。
- 事務局が提示した全ての項目を話し合う必要があるか？委員が本当に話し合いたい項目を絞ってはどうか。
- 協働のイメージはひとそれぞれ異なるので、そこを話し合っていきたい。

(4)不安なこと

- この指針の話し合いがどのようにまとまるか不安
- 北名古屋市の目指すゴールと、委員のみなさんの想いが違うのではないかという感じがする。

OB グループ

(1)指針で目指すこと

- われわれの子どもころには、日常的に協働があった。それは行政にお金がなく、何もしてくれなかったから。しかし、10年先、北名古屋の税収が少なくなって、また行政が何もできなくなったときに、地域がどうなるのかということについて、今は、市民は考えていない。その意識をどのように変えていくか。
- 昔のあたりまえのようにあった協働にはもどれない。現在の30代~40代は、そのような協働の経験がないから、その世代の意識を変えていかななくてはならない。
- 市民活動をする人が、ちょっと得するシステムができないか。一生懸命活動すれば、お金がもらえ

たり、ポイントがもらえるなど。ポイントを持っている人が、いざ困った時に助けてもらえるようなもの。(以前、ボランティアのポイント制を提案したが、実現していない)

- 団塊世代は時間がある。NPO 活動は重い荷物になることもあるので、そこをいかに楽しく活動していけるか。仲間づくりがカギになるのではないか。
- 行政職員は異動があるが、北名古屋くらいの規模であれば、市全体の仕事を覚えて、市民・団体に対応できるようにしてほしい。

(2)指針のつくり方

- 指針だけでは実践が伴わない例もある。
- 北名古屋市に似た都市で、協働をうまくやっているところの事例を、参考にしてもよいのではないか。



○岩崎先生のコメント

協働は、目的ではなく、なにかを実現するための手段です。

では、どんな目的をかかげるべきなのか。それは、「北名古屋をこういうまちにしたい」という、みなさんの意思からできるものです。

その実現にむけて、市民の活動がいろいろある中で、いまの活動で足かせになっているものは何か、どのように取り除いていけるかというのが、これからの最初の方針になると思います。

両グループの議論にでてきたように、各地で協働の指針づくり、協働の実践が試みられているので、いいとこどりをすることも有効だと思います。ただ、「どういうまちを目指すか」、「市民はどんな役割を果たすべきか」という点については、北名古屋独自のものとして議論することが、絶対に必要です。

○全体で意見交換

- 指針が完成したらどのように使われていくかがわからない。
 - 指針をつくっても、協働を実践することが大事。実践をしていけば、なにが必要かがでてくるので、今回は薄いものでもいいのではないか。
- グループの議論で、年代の話がでてきたが、年代別のステージで考えてはどうか。子ども、30~40代、団塊世代に対する指針、というかたちで。それを踏まえて策定すれば、特定の世代にたいして働きかけやすくなる。
- 意識啓発のため、北名古屋の財政状況や、このままいけばどのような将来になるかを盛り込んでどうか。
 - 北名古屋の学区単位で岩崎先生に講演をお願いしたい。

5. 今後の進め方

これまでの議論を踏まえ、今後の進め方について意見交換をしました。

- 自分たちが本当に思っていることをいうために、長い時間をとって、（グループでなく）全体で意見交換をしたい。
- 北名古屋の人口構成や地形が似通った事例をもとにアレンジする方が、短期間でいいものができるのではないかと。
 - みんなで話し合えることも大事なので、たたき台はあっても、意見を少しずつ出しあっていくのがいい。
- 指針づくりのために集まっているのではなくて、北名古屋をどうしていくのかというのが、本来の目的。どのような北名古屋にしていくかを決めて、それを大切にしていってほしい。
- 今日ここでたくさんの意見がでたので、事務局で指針の目的をまとめて、もう一度討議して決めたい。
- 過去に市がやった研究、調査、計画がたくさんある。そうしたものを積み重ねの上につくってほしい。過去に決めたことが、いまの時代にあうのかあわないのかも含めて考えたい。
- つくってほっとして終わり、ではなく、本当に実現できるものをつくりたい。

5. 今後の予定

(1)第 3 回策定委員会

日時：10月22日（月）18:30～21:00

場所：西庁舎 3階第2会議室

(2)委員の宿題

- 指針づくりのモデルになる事例を探してくる。
 - わからなければ事務局に聞く
- 指針の前文の内容や、キャッチコピーを考えてくる